

令和4年度 第4回

鞍手町立小学校の統合に向けたあり方検討委員会

令和4年11月15日
鞍手町中央公民館 第1研修室

1. 開会

2. 議事

- (1) 統合小学校の建設候補地について
- (2) 統合前の小学校の歴史や伝統の継承 及び
統合小学校の目指すべき方向性について

3. その他

第5回 開催予定日 令和4年11月24日（木）

4. 閉会

配布資料

- 【資料1】統合小学校建設候補地比較表
- 【資料2】統合小学校における徒歩通学範囲（想定通学路 整備必要箇所）
- 【資料3】放課後児童健全育成事業の現状と統合校での形態
- 【資料4】学校給食共同調理場の現状と統合校での形態
- 【資料5】統合前の小学校の歴史や伝統の継承
- 【資料6】小学校統合計画コンセプト検討
- 【資料7】委員からいただいた質問・要望内容
- 【資料8】統合小学校建設候補地に関する意見集約票

統合小学校建設候補地比較表

	鞍手中学校敷地	剣南小学校敷地	旧鞍手北中学校敷地
①敷地特性比較			
敷地現況図			
敷地面積	約22,600㎡	△ 約36,100㎡	○ 40,024㎡
敷地の余裕・計画のしやすさ	校舎の高層化が必須になる	△ 既存校舎を避けた校舎計画となる	△ 障害物が少ないため校舎計画が容易
道路への出入の容易さ	東側：容易に出入可能 西側：容易に出入可能	○ 北側：容易に出入可能 南側：切り返しが発生※大型車	△ 大型車の同方面への出入ができない 可能性がある(スロープ運用による)
法的な規制	調整池やグラウンドエリアで工事が発生する場合、従前の開発許可に影響	△ 用途地域の高さ制限(10mまで)緩和に向けた各種手続きが発生	△ 現時点で特段なし
敷地の状況	現在教育施設研究所として使用中	○ 現在小学校として使用中	○ 旧炭鉱地で坑道対策が必要
立地適正化計画	都市機能誘導区域	○ 都市機能誘導区域	○ 居住誘導区域
総合評価	小学校用地としては他事例と比較しても敷地がかなり狭小になる	△ 既存校舎を避ける必要があるため校舎や体育館の位置が現在のグラウンド側になる	○ 敷地に最も余裕があるが、坑道対策が必要であり、スロープや前面道路幅員がないため車両の出入に課題がある
②計画面比較			
計画概要図			
校舎と体育館	校舎階数 5階建以上(5階に体育館)	△ 3階建以上	○ 2階建以上
	教室の採光 一部無採光になる部屋がある	△ 全教室南北面での採光確保が可能	○ 全教室南北面での採光確保が可能
	体育館の位置 校舎上階への配置	△ 校舎上階・地上配置どちらでも可	○ 校舎上階・地上配置どちらでも可
屋外施設	プール 校舎上階・地上配置どちらでも可	○ 校舎上階・地上配置どちらでも可	○ 校舎上階・地上配置どちらでも可
	グラウンド ・中学校グラウンドの一部を利用 ・児童の敷地内道路の横断が発生	△ ・150mトラック程度を確保可能 ・校舎に隣接させて配置可能	○ ・150mトラック以上を確保可能 ・校舎に隣接させて配置可能
付帯施設	給食調理場の位置 敷地内別棟	○ 敷地内別棟	○ 敷地内別棟
	放課後児童クラブ 2階建以上	△ 2階建以上	○ 平屋で計画可
総合評価	校舎が5階建て以上になり、ゆとりが少なく無採光の部屋が出てくる	△ 計画地がグラウンド側に限定される点を除けばある程度自由に計画が可能	○ 敷地内にゆとりがあるためある程度自由に計画が可能
③工事面比較			
工事車両動線	既存出入口を利用(中学校動線と区画)	△ 既存出入口を利用(小学校動線と区画)	△ 既存出入口を利用(周辺道路が狭小)
工事中の安全性	既存中学校との間に安全区画が必要	△ 既存小学校との間に安全区画が必要	△ 利用施設がないため安全区画が不要
工期の調整	既存施設解体時期の調整が必要	△ 綿密な建替計画と工期を要する	△ 既存施設との兼ね合いがないため容易
総合評価	敷地内に中学校があるが、比較的安全に工事エリアと区分可能	△ 最も工期が長く、代替機能確保、安全管理などの課題が多い	○ 敷地内に利用施設がないため最も工事が行いやすい
④コスト面評価※推定			
整備費	5,600,000,000 円	5,900,000,000 円	6,200,000,000 円
補助金・交付税措置	3,900,000,000 円	3,900,000,000 円	4,200,000,000 円
鞍手町実質負担額	1,700,000,000 円	2,000,000,000 円	2,000,000,000 円
総合評価	○	△	△
⑤通学面比較			
通学路の整備	○ 鞍手中学校、剣南小学校、剣北小学校の通学路として大部分が整備済	○ 鞍手中学校、剣南小学校、剣北小学校の通学路として大部分が整備済	△ 現在、通学路として想定されていない区間(古月・新延小→統合小)の大規模な整備が必要(用地買収による歩道設置・拡幅)※スクールバスの運行による回避は可能
スクールバスの運行	○ 鞍手中学校のスクールバスと同様の運行ルートとなる	○ 鞍手中学校のスクールバスと同様の運行ルートとなる	△ 鞍手中学校のスクールバスと異なる運行ルートとなり、剣南小校区への運行も必要
総合評価	○ 剣北小⇔剣南小校区境界部分の通学路整備とスクールバスの運行で通学可能	○ 剣北小⇔剣南小校区境界部分の通学路整備とスクールバスの運行で通学可能	△ 通学路として県道を含めた大幅な整備が必要で費用と整備期間が必要

想定通学路 整備必要箇所 現況写真

①



②



③



④ - 1



④ - 2



④ - 3



⑤ - 1



⑤ - 2



⑤ - 3



⑥



⑦ - 1



⑦ - 2



放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の現状と統合校での形態

1. 現状

当町の放課後児童クラブは、剣南小学校及び剣北小学校には各々の放課後児童クラブを、古月、西川、新延、室木小学校については、小学校から放課後児童クラブまでを専用の送迎車により送迎することにより、1施設で4校合同の放課後児童クラブとして運営しています。

また、課題として、全ての放課後児童クラブが小学校敷地外にあることが挙げられます。

小学校名	放課後児童クラブ		児童数（R3年度）	
	名前	場所	登録数	支援単位(※)
剣南小学校	剣南学童のびのびクラブ A	中央公民館敷地内	50人	43人
	剣南学童のびのびクラブ B		41人	34人
剣北小学校	鞍手学童保育自然クラブ	旧鞍手分校跡地	36人	30人
古月小学校	西川古月学童なかよしクラブ	鞍手町総合福祉センターくらの郷敷地内	73人	63人
西川小学校				
新延小学校				
室木小学校				
合計			200人	170人

※ 支援単位あたりの児童数

支援単位とは、児童の集団の規模のことで1支援単位ごとに放課後児童支援員2名以上を配置することが必要。支援単位あたりの児童数は、登録児童の利用頻度を踏まえた児童数であり、週6日開所する放課後児童クラブの場合、週6日利用する児童は1人、週3日利用する児童は0.5人として算定される。

★ 放課後児童クラブが小学校敷地内でないことでのデメリット

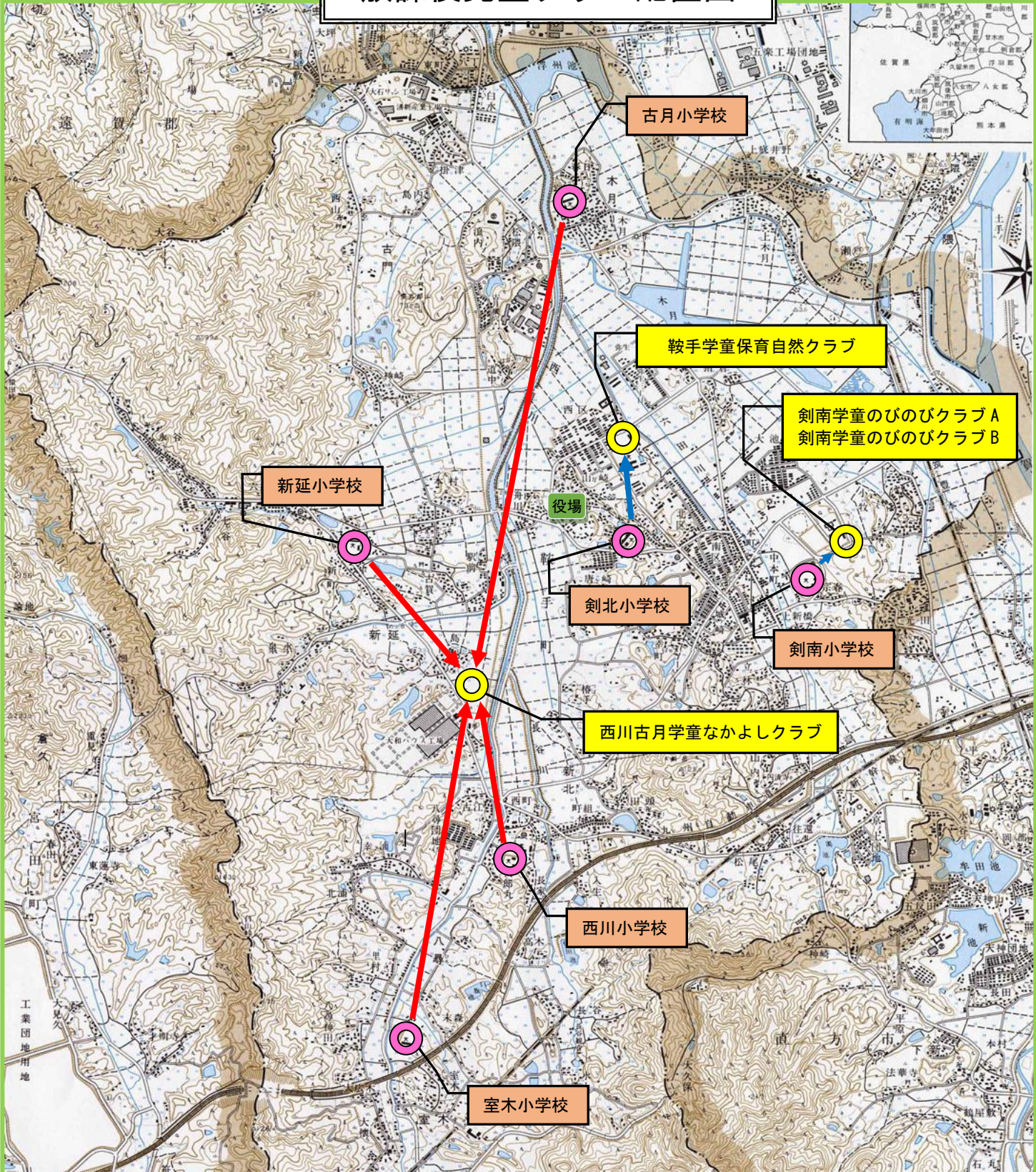
- ・小学校から放課後児童クラブに行く間に交通事故等様々なリスクが生じる。
- ・特別な支援が必要な児童が放課後児童クラブへ通う手段がない。
- ・運動場で遊べない。
- ・小学校の先生と放課後児童クラブの支援員との連携が図りづらい。
- ・防犯という点で、小学校敷地内と比較して脆弱である。

2. 統合校での形態

統合校での放課後児童クラブは、現状での課題を踏まえ統合校の敷地内へ整備します。

整備規模は、現状の児童数が維持できた場合を想定し、4支援の単位を運営できる建物を整備します。

放課後児童クラブ配置図



- ... 小学校
- ... 放課後児童クラブ
- ... 児童動線 (徒歩)
- ... 児童動線 (バス)

学校給食共同調理場の現状と統合校での形態

1. 現状

鞍手町学校給食共同調理場として昭和43年12月に竣工、昭和44年1月10日から給食を開始し、現在は町内6小学校及び鞍手中学校の7校の児童生徒及び職員分約1,250食を提供しています。場所は中山公園の隣接地（中山3705番地）にあり、給食調理後午前11時くらいから給食配送車2台により、各小学校及び鞍手中学校へ給食を運び、午後1時30分くらいから食器等の回収にまわっています。

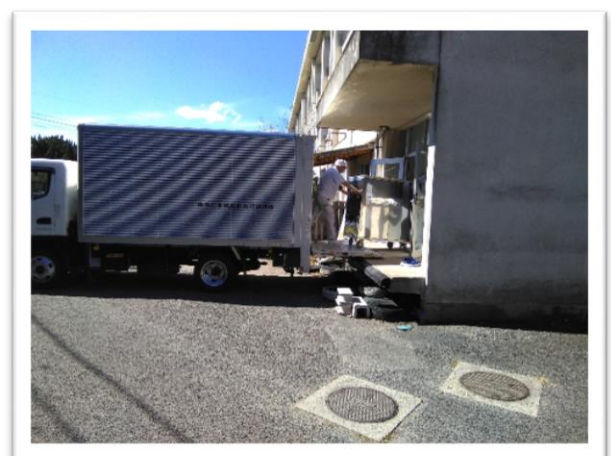
平成29年度までは鞍手町の直営で運営していましたが、平成30年度からは献立作成、材料発注を除く、調理、配膳、下膳、食器洗浄を民間事業者へ委託しています。調理器具を更新、施設を乾式へ改修するなど、学校給食法等の関係法を満たして運営していますが、建物の老朽化が顕著です。

また給食センター方式の最大の難点は、調理した献立を配送するの必要があり、配送コストが発生することはもとより、自校式と比較すると、どうしても給食開始までに時間を要してしまうことです。

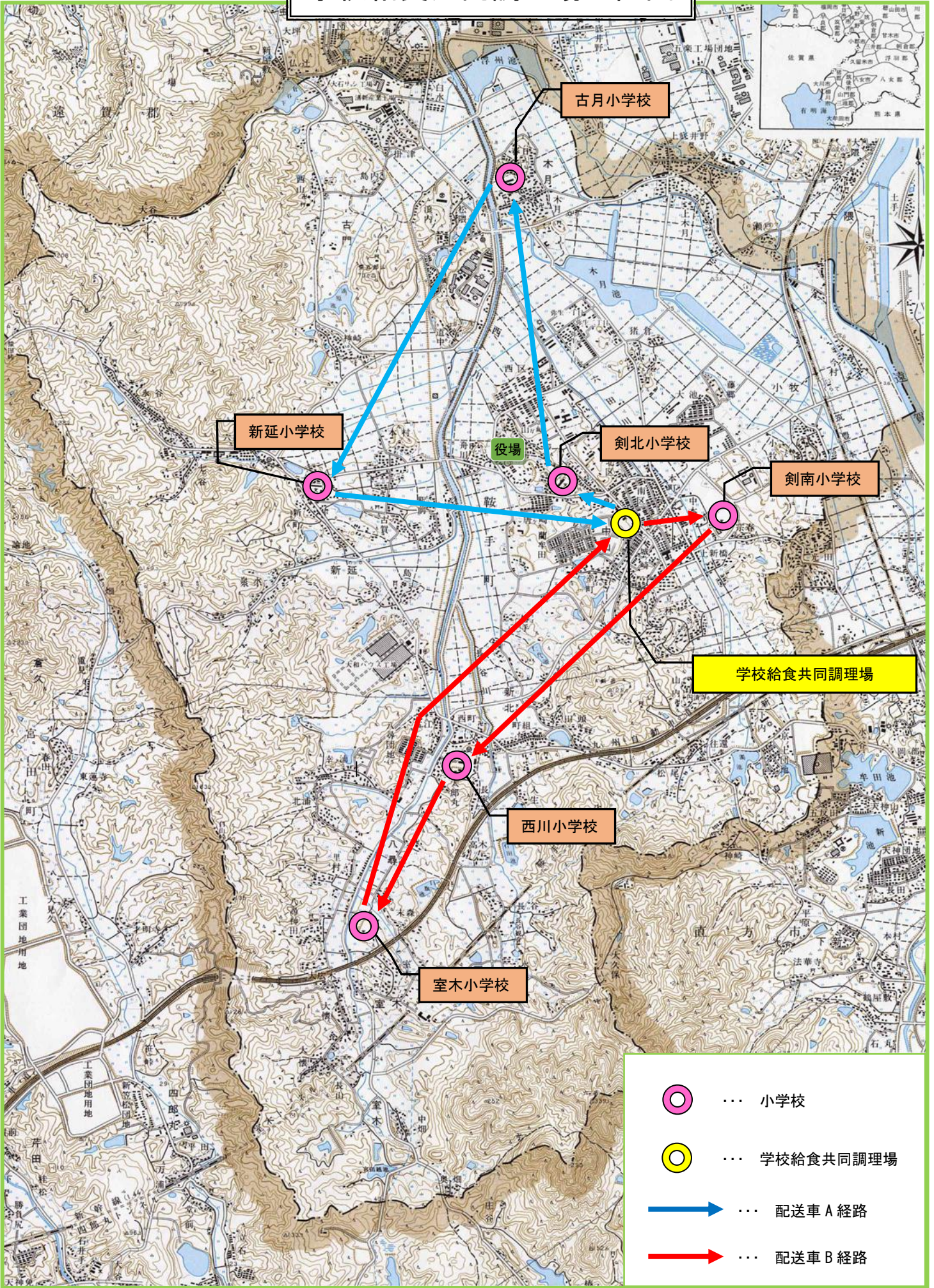
2. 統合校での形態

昭和43年の建設から50年以上が経過しており、老朽化が顕著であることから、学校給食共同調理場は建て替えが必要な状況です。

小学校が1校に統合されることから、学校給食共同調理場を現地建て替えるメリットはなく、統合小学校に併設して整備し、現在と同じく鞍手中学校生徒分の給食も併せて提供します。



学校給食共同調理場配置図



統合前の小学校の歴史や伝統の継承

各小学校の歴史や伝統

学校教育活動

教育課程

教育課程外

児童に寄り添った教育		反復学習	
事例	習熟度別授業、近接学年複数担任制	事例	朝読書、〇〇タイム
効果	学習意欲・学力の向上、指導力継承	効果	基礎基本の習得、定着
児童の主体性		縦割り班活動	
事例	楽器演奏、すもう	事例	学校伝統行事、掃除、大縄大会
効果	リーダー性、自己肯定感	効果	異学年交流を軸とした人間関係形成
地域に根差した体験学習		あいさつ	
事例	大豆の栽培・収穫・加工・販売	事例	「語先後礼」の挨拶
効果	課題解決のための本物体験	効果	気持ちの良い人間関係の醸成
地域とつながる特別活動			
事例	感謝祭、人権教育、国際理解教育	事例	
効果	社会とのつながり、多様性	効果	

特徴

- 知識や技能の習得を目指す多種多様な取組
- 本物の体験学習を実現可能にする地域資源
- 人間関係形成力や自己肯定感を高める児童の主体性を育む取組

①地域資源を生かす

- ・ 6校共通の教材（土器や遺跡など）
- ・ 既存小学校独自の教材（まわし、太鼓など）
- ・ 人的資源（JA、歴史民俗博物館学芸員、ボランティアなど）

②ノウハウを生かす

- ・ 各小学校の教育活動の集約と再構築（スクラップ&ビルド）
- ・ 児童の主体性を育む取組みの集約と再構築（縦割り班活動など）
- ・ 複数クラス化による横のつながりの創出（同学年児童間の交流）

③持続可能性を確保する

- ・ 教科の学びにつなげる（カリキュラム・マネジメント）
- ・ 学校教育を通じた目標を共有し、連携・協働する（社会に開かれた教育課程）
- ・ 担い手の確保

継承策の方向性（案）

地域参画などによる教育的活動

テーマ（興味関心）によるもの

地縁関係によるもの

町の自然		校区育成会の参画による各種活動	
事例	六田川の観察	事例	スポーツ交流会、ふれあい感謝祭
効果	普段できない体験を通じた発見	効果	児童と地域の交流、地域への愛着
町の産業		地域で開催する季節行事	
事例	お米作り、大豆作り	事例	どんど焼き
効果	食育、産業に携わる方との交流	効果	情操教育、地域への愛着
社会との出会い			
事例	読み聞かせ、人権教育	事例	
効果	大人や好奇心とのつながり	効果	
キャリア教育			
事例	夢授業	事例	
効果	職業観の芽生え、将来の夢を描く	効果	

特徴

- 学校や子供との接点を持ちやすい教材の宝庫
- 学校と地域の多種多様な関わりを育んできた校区育成会などの取組
- 地域への愛着を育む取組の新陳代謝

①地域で子供を育てる

- ・ 地域として子供との関わりを持つ
- ・ 子供が地域や社会に興味を持つようにする（豊かな経験の提供など）
- ・ 「学校を核とした地域づくり」の観点を拡充する

②地区（統合前の校区）を越境する

- ・ 小学校統合によってできる新たなことを実践する
- ・ お互いの地区の行事に招待する、招待される（地縁だけではなく、テーマで参加）
- ・ お互いを知る「楽しく盛り上がる」地域行事の開催（地区対抗リレーなど）

③地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働

- ・ 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と地域学校協働活動の一体的な推進
- ・ 学習指導員や教員業務支援員として学校運営に参画

第3回あり方検討委員会での委員発言の要旨

インプット型の授業だけではあまり勉強を好きになれず学習意欲が低下する子供もいるので、**アウトプットする学び**が大事かと思う。
人と人が心通わせながら、子供に寄り添った教育にしてほしい。

文脈的学習などいろいろな学び方があり、活動は多様なものとなるので、それを受け入れることのできる場の整備が必要になる。

関連情報



出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告（令和4年3月）

小学校統合計画コンセプト（案）

多様な学習活動が展開できる学校

小学校統合計画コンセプト検討 (2 豊かな心の育成)

第3回あり方検討委員会での委員発言の要旨

前回委員会で小学校の最新事例の紹介があったが、本がどこでもあって読めたりボルダリングができたり、**子供の興味が湧くような校舎**にしたい。

古月小学校では、先生やPTAが手厚く接してくれるのはとても良いことだと感じているが、一方で、周囲が先回りしてしまっているという面もあり、そのため、子供の自己肯定感が低いのではないかと心配事もある。**小学校統合により、児童同士の交流が生まれ、そのなかで児童の主体性を育む**ことができればよいと思う。

少人数の学校に通っていた児童が大人数の学校に対応できないのではないかと心配するので、サポートしてほしい。したい。

関連情報



宮若市光陵小学校 交流ホール
飾り棚の裏の小空間にベンチを設置

小学校統合計画コンセプト (案)

子供の好奇心をかきたてる学校

縦 (異学年) に加えて、横 (同学年) のつながりのある学校

様々な居場所がある学校

小学校統合計画コンセプト検討
(3 健やかな体の育成)

第3回あり方検討委員会での委員発言の要旨

鞍手町の子供は身体の線が細い子が多いので、配慮してほしい。

関連情報



宮若市光陵小学校 みんなのひろば
上履きそのまま遊ぶことができる屋外空間

小学校統合計画コンセプト (案)

休み時間に外遊びしたくなる学校

小学校統合計画コンセプト検討 (4 学校指導体制の整備)

第3回あり方検討委員会での委員発言の要旨

カリキュラムのスクラップアンドビルドにより人員や時間の改善も行っていく必要がある。

コミュニティ・スクールを実践するスペースがないと実現しづらいものになってしまう。

教育課程は学校長が決めることではあるが、**教育課程外の領域**で鞍手町としても踏み込んでサポートしてほしい。一案として、鞍手町ならではの**アフタースクールのような学べるプログラムがある場**を構築するというものがある。「学童」は「所定の時間になるまで預かるだけ」というイメージが強いので、名称変更した方がよいかもしれない。**例えば塾に行かなくても良い統合小学校であれば、町の魅力にもつながるのではないか。**大学生ボランティア志望者は多く、近隣の福津市や宗像市には多く出ているので、鞍手町が募集すれば学生は興味をもつかもしれない。

関連情報



パフォーマンスを最大化するための執務空間



地域の人たちと連携・協働する共創空間



学生ボランティア活動

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」
最終報告（令和4年3月）

出典：福岡教育大学HP

小学校統合計画コンセプト（案）

多様な関係者が参画しやすい学校

小学校統合計画コンセプト検討 (5 特別支援教育の推進)

第3回あり方検討委員会での委員発言の要旨

特別支援学級の運動会などで、障害者も健常者も一緒に参加できればいいと感じた。
特別支援学級と交流できる学校にしてほしい。

ユネスコから日本のインクルーシブ教育について指摘が上がっている。一つは、**教育を「分けすぎ」**ということである。インクルーシブ教育を推進するには、たとえば、昔のように保健室が居場所になるだけでなく、**それ以外の学ぶスペースとして、「クールダウンスペース」**など校舎の**環境整備**も必要である。単に特別支援教室を用意すればいいわけではない。

宮若市立光陵小学校の学校でも、**特別支援学級の需要が増えている**と聞いた。3クラスあり、普通クラスとは動線を分けていた。**特別支援学級の児童は音に敏感なので、その特性への配慮が必要**だと思う。

関連情報



宮若市立光陵小学校1階平面図
静かな環境で学校生活を過ごすことができるように特別支援学級の動線は分けている。

出典：宮若市HP

小学校統合計画コンセプト（案）

特性に配慮して的確に分かれている学校

ハード・ソフトの両面で交流を促進できる学校

委員の皆様からいただいた質問・要望・意見等

1. 意見

(1) 統合小学校の目指すべき方向性について

学校を主として利用するのは子どもたちなので、子どもたちにアンケートをとっていただきたいです。どうしても大人目線だと、大人の都合のよいものになっていくものです。

また、併せて先生方にもアンケートをとっていただきたいです。

例えば小中一貫校を目指すといったソフト面の考えもなく、ただ中学校敷地に押し込んでいるとしか見えない。

中学生に対し怖い思いをする小学生の心理面への配慮など、最も大事な小学校児童、中学校生徒の観点が欠けている。

地域や幼保連携、不登校児童・生徒への対応などの行政による支援を充実させ、鞍手の学校で学ばせたいと思われるような教育環境にしてもらいたい。

一校になるのだから、隣接地の購入や坑道を埋めるなどをして、シンボルとなるような学校を作り、移住定住などにもつなげてほしい。

諸事情により統合まで時間がかかるようであれば、統合推進の理由（小規模学校のデメリット）からも、部分統合を進めるべき。

(2) 候補地 鞍手中学校 について

他に建設候補地がないならともかく、敷地内に押し込むために6階建てにしたとしか思えない。給食はもちろん、児童用のエレベーターも必要になるが、外壁や電気系統などもあわせ、維持管理、経常経費が高騰する。

多くの杭をかなりの深さまで打つ必要があると思われ、通学する生徒、送迎する保護者がいるなかで、多くの工事車両が出入りし、許容範囲を超える騒音が出ると考えられる。

児童数の減少に反し増加する特別支援教室や学童保育室の施設整備基準を満たし続けることができるか疑問。

朝、運動場で遊ぶ小学生が、バスや送迎車両の通る道を横切るために危険。

小中学校の送迎車両を合わせると、渋滞も起きかねず、周辺道路の大規模整備が必要。

統合小学校規模の割に駐車場がせまい

小中学校が同一敷地にあることで送迎の負担が減るというメリットもあるが、反面、課題も
でる。

学童保育の児童も外遊びや小学生の放課後の遊び場としても運動場は大切。また、小学生の
放課後の遊び場（迎えがくるまで遊ぶ子もいる。）としても運動場は大切で、部活動との兼用は
問題が起きるのではないか。

それぞれの学校行事、部活動との調整が困難と思われ、児童・生徒はもとより、学校運営に
おける教員の負担も大きく問題。

陸橋をかけたとしても運動場への移動に際し、児童の安全管理の負担が大きい。

（3）その他

9月までの会議では各候補地のマイナス面しか示されておらず、デメリットの部分をどう解
消するか、特に、どのような小学校を目指すのかなどが全く見えないなかで、適切な建設地を
選ぶことはできない。

また、鞍手町立小学校の統合に向けたあり方検討委員会は審議会であり、諮問に対し意見を
言う場であり、（ましてや多数決で）一か所に絞り込むような決定をする必要はない。

本審議会の意見を参考に、教育委員会の権限と責任において、町長部局と調整のうえ、建設
候補地の絞り込みを行っていただきたい。

鞍手町立小学校の統合に向けたあり方検討委員会 統合小学校建設候補地に関する意見集約票

1. 以下の3つの建設候補地について、最も建設地に相応しいものに◎を、2番目に相応しいものに○を、3番目に相応しいものに△を書いてください。

建設候補地名	鞍手中学校敷地	剣南小学校敷地	旧鞍手北中学校敷地
評価欄			

2. 各候補地に対して、建設地として相応しいと考えた点や評価した点、建設地とする場合改善すべき点等があれば、各候補地の意見欄へ記入してください。
また、いずれの候補地に建設する場合でも改善すべき点等があれば「全ての候補地」の意見欄へ記入してください。

建設候補地	意見欄
鞍手中学校敷地	
剣南小学校敷地	
旧鞍手北中学校敷地	
全ての候補地	

鞍手町立小学校の統合に向けたあり方検討委員会 統合小学校の建設候補地に関する考え方

1. 前提

統合小学校の建設地は、鞍手町との施設整備に要する財政面等を主とする協議も踏まえ、鞍手町教育委員会が決定すべきものであり、あり方検討委員会が決定するものではない。

したがって、鞍手町教育委員会が行う統合小学校の建設地の決定に対して、あり方検討委員会に責任が生じるものではない。

2. 考え方

あり方検討委員会として、3候補地に対しての評価を行うとともに、各候補地に建設する場合の留意点をまとめ、鞍手町教育委員会へ提言する。

3. 各候補地の評価及び留意点の取りまとめ

(1) 実施方法

別紙「統合小学校の建設候補地に関する意見集約票」を全委員に無記名で記入していただき、事務局で回収し、集計・整理する。

(2) 各候補地の評価方法

3候補地に対して、統合小学校の建設地に相応しいと思う場所から順に、◎・○・△の評価記号を付す。なお、評価記号は必ず全てを使用すること。
(全て◎や、◎○○などとはしない。)

(3) 集計方法

◎を3点、○を2点、△を1点として、各候補地の合計点を出す。
合計点が最も高い候補地を、あり方検討委員会としての統合小学校建設候補地とする。

(4) その他

あり方検討委員会としての統合小学校建設候補地及び各候補地の評価結果と出された留意点を提言としてまとめる。

なお、鞍手町教育委員会が決定する統合小学校建設地は、あり方検討委員会が提言する統合小学校建設候補地に縛られるものではない。